

## 宮脇 喜八郎さん

1944(昭和19)年生まれ、  
東彼杵町里郷出身、  
口木田郷在住



# 東彼杵のひと

vol.16



千綿竹林保全会メンバーとして、また東彼杵町農業委員として地域に貢献されている、口木田郷の宮脇喜八郎さんにお話を伺いました。

## 若かりし日



里郷の農家で7人きょうだいの末っ子に生まれ、高校卒業後は長崎の航空関連会社に就職しました。各地の空港に拠点を置き、燃料補給や貨物・手荷物を扱う航空機地上支援業務(グランドハンドリング)を行う会社です。

転勤で福岡にいた23歳のある日、親父からハガキで「晴れ着を持って帰ってこい」との連絡。帰省するとお見合いの席でした。緊張で食事が喉を通らず、気づけばご飯にお茶をかけて流し込んでいました。そんな私を、笑いをこらえながら見守っていたのが妻です。この時のことは今でも夫婦の語り草になっています。

## 父と同じ道を

結婚して福岡で新生活を始め、2人の子どもにも恵まれて、そろそろ地元へのUターンを考えようかという頃、長崎空港が完成しました。会社で長崎空港での新事務所開設の話が持ち上がり、地元出身者の私が所長を任されることに。妻の実家のある口木田郷に帰ってきました。

そこから定年まで30年、家族に支えられながらやりがいのある仕事を続けられたこと、長男・次男そろって私と同じ航空を支える仕事に就き、今も空港で頑張ってくれていることは、私の人生の宝ものといえます。



## 定年後は農家

定年後は野菜づくりに熱中しました。農家の生まれだからか「今日はどうしとるやろか?」と畑に行くのが楽しくて。一方で地域では農業の担い手が減り、耕作放棄



福岡空港にて、新しい機体(ダグラス DC-10)の前で先輩と。右が宮脇さん。

棄地が問題になっていることを知りました。それならばと、いちご農家をしている家族に協力してもらい、口木田でもいちごの栽培を始めることにしたんです。10年間はいちご農家として、農業の苦勞も喜びも味わいました。今は規模を縮小して自家用だけ栽培しています。

口木田の皆さんと一緒に「桜と花の里づくり」というスローガンを掲げ、荒れていた山を手入れして桜や菜の花を植える取り組みも続けています。花があふれる春が、今年も待ち遠しいです。

## 美しい竹林へ

一昨年から同世代の6名で「千綿竹林保全会」を結成し、地元の放置竹林の整備を行なっています。放置竹林は竹が農地まで侵食したり、土砂災害のリスクが高まったり、農地を荒らす害獣のすみかになったりと、さまざまな影響が出てくるんです。

昔懐かしい「タケノコがとれる美しい竹林」を目指して、メンバーと地道に倒竹や枯竹を取り除くところからスタート。片付いてきたら間伐を行うことで、明るく美しい竹林がよみがえり、昨年春にはおいしいタケノコが収穫できました。かまどでゆでて、たくさんの方に喜んでいただきたときは、本

当にうれしかったです。

妻と共に参加するこの活動が、私の今一番の楽しみ。体力の続くうちは、仲間たちとこの活動を続けていきたいですね。



千綿竹林保全会のメンバー。屋外での活動は健康づくりにも役立っているそう。

## 取材とぼれ話

宮脇さんを含む農業委員（14名）と、農地利用最適化推進委員（14名）は、地元の農地確保・効率的な利用・担い手育成・農業振興・耕作放棄地の解消など幅広い農業の課題に取り組んでいます。